

くつろぎ

こんなことがあったとさ

くつろぎ
特養かわら版

令和三年十二月号



ひまわりの畑で芋を掘りました(10/18)。
大きな芋が続々と収穫でき、ご入居者も職員も
童心に戻ったような笑顔がたくさん見れました。

銚子丸のお寿司を食べました(11/17)。
お寿司を最初に目にした時のご入居者の笑顔、
やっぱり美味しい食べ物は敵いませんね。



近所の蕎麦屋の出前を食べました(10/03)。
それぞれ好きな物を注文、美味しかったのか
どうかは写真の笑顔を見れば、分かりますよね。



現場職員から見た「職場」としての特養

常勤職員18名、非常勤職員11名が特養で働いています。くつろぎ新聞では、職員の紹介コーナーを毎回設けていますが、今回は少し目線を変えて、「職場」としての特養はどういう所なの？ 職員目線で見た特養の姿の一つをご家族の皆様にご紹介したいと思います。

職員が疲れ切っていたり、職場が暗い雰囲気だったり、職員の個人プレーばかりの職場では、より良い介護サービスは提供できません。

夜勤もある不規則なシフト勤務のため、体調を崩す職員もいます。そんな時、体調が悪かったら、熱が何度であっても無理せず休もうよ。その分、みんなでフオーロ頑張りうぜ。私たちの職場は、そういう職場です。

「働きやすい職場」「人間関係に恵まれた職場」おそらく多くの特養の職員が感じている事だと思います。そんな職場作りの先頭に立っているのが牧副主任です。

「牧副主任」職場としての特養を語る上で、この人は欠かせません。この人を知って頂ければ、特養がどんな職場なのか、その一端が垣間見れると思います。声が大きくて、明るくて、元気で、筋骨隆々で、優しい人です。結婚し、親となり、副主任となり、更なる飛躍を現在進行形でしています。ご入居者だけでなく、職員の様子の変化にもすぐ気付ける人です。

「〇〇さん、起きました〜！」
今日も食堂には牧副主任の誰よりも元気な声が響きます。



特養で結婚式！



千葉県の介護事業も担当中



今の主任です

今の副主任です



※行事の仮装コーナーです



介護の魅力をやりがいを感じます！
千葉県 介護の未来案内人

職員紹介コーナー

ここ数日は車のフロントガラスが凍り、急に冬になったと感じております。特養のアースラこと、中里と申します。初めてアースラを見た時に「私だ」と思うほど似ています。

今回は私の今年一年をお話させて頂きたいと思っております。年のせいかな、春頃より身体がポンコツ状態となりました。結果、日勤のみという贅沢な勤務をさせて頂いています。しかし、今までよりもご入居者とお話が出来る等、良い部分が増えたように思っております。心に刻んだことは「年には勝てない」です。

このような私ですが、宜しくお願い致します。寒さが厳しくなると参りますが、どうぞお身体大切にお過ごし下さい。



アースラです
(参考)



編集後記

こんにちは。特養の松本です。

例年であれば、秋冬の特養では「運動会」「忘年会」といったご家族参加型の行事がありました。当時はそれが当たり前のこと過ぎて、あまり考えていませんでしたが、行事とは、ご入居者に楽しんで頂く機会であると同時に、特養の職員が働く様子をご家族の皆様に見て頂く機会、特養の職員がご家族の皆様を知る機会でもあったんだなど、コロナ禍となって感じております。

特養フロアでの面会が叶わぬ現在、職員の間でも、もっと知って頂きたいと思っております。それが少しでもご家族の皆様にとっての、安心に繋がらたら幸いです。

